

## 即 便 往 生



### 機法一体

法然上人の伝記の中で、もつとも古いものに『醍醐本』があります。

その中に、法然上人がお伝えになったというとても面白い言葉があります。

「慕<sup>も</sup>する人というは阿弥陀仏なり、恋<sup>こ</sup>らるる者とは我等なり」

わたしたちが阿弥陀仏を慕っているではありません。阿弥陀仏が、私たちが恋慕<sup>こ</sup>ってくださっているのです。

この慕<sup>も</sup>っている阿弥陀仏の思いに、私たちが気付いて、私たちが阿弥陀仏を思えば、より早く慈悲の心と一つになることができます。

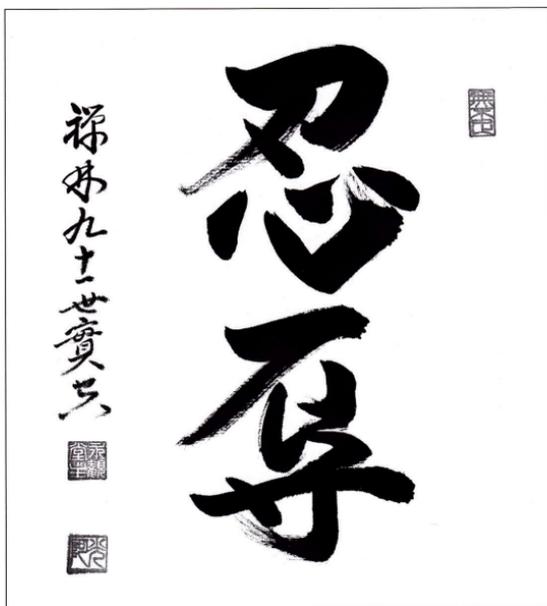
法然上人は、この他力に気付くことがとても大切なことだと、おっしゃっています。特に、晩年には、このことを強調されています。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我嚴昭猥下のご染筆です。前々号の色紙は、京都府京都市在任仲田有希様に進呈します。ご希望の方は八方主で住所氏名・希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。



### 忍辱



#### 忍辱

仏教では、私達の世界を「娑婆」と言います。娑婆には「耐え忍ぶ」という意味があります。

つまり、この世は様々な事に耐え忍ばなければならぬ、苦しみの多い世界であると言うのです。

しかし、苦しみに耐え忍ぶことで、始まることもあります。

そんな時は、少しでも善いことを続けようとするのが大事です。善因楽果というように、人の為になる何かを行うことです。

もう一つ、苦しみに耐え忍ぶと、本当に大切なことは何なのかが見えてきます。それは、大きな宝物です。地獄のような苦しみの中から初めて見つかるものです。これは、もう言葉では表現できません。

「これに気づかせていただいで良かった」と納得するにはむごすぎたとしても、耐え忍ぶことでしかわからないことも、ちゃんとあります。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我儼昭猊下のご染筆です。前々号の色紙は、兵庫県神戸市在住駒井幹彦様に進呈します。  
ご希望の方は八ガキで住所氏名希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し二名に進呈。



報恩謝徳

有難う

妻が、六十歳代で亡くなった。治療方法がない国指定難病だった。亡くなる半年前に、妻に詫びた。

大正生まれの頑固な舅しゅうとに耐えてくれたこと、妻に相談もしないまま勝手にお客さんをつれてきて迷惑をかけたこと、子ども会での流し素麺を暑い中で茹でてくれたこと、子ども三人の弁当を朝早くから準備してくれたこと、などなど。

そんな頑張ってくれた妻に、なかなか感謝の言葉を伝えられなかったこと。

詫びた私のことを、妻は許したのか、認めたのかは、わからない。  
でも詫びなければ、居ても立ってもいられない私だった。

総本山 永観堂 禅林寺

永観九十七歳賀只



謝報  
読恩

右の色紙は管長久我儼昭猥下のご染筆です。前々号の色紙は、愛知県豊明市在住吉田真一郎様に進呈します。ご希望の方は八方主で住所氏名希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。



### 持戒 清淨



#### 授王八戒

お釈迦様の昔、ある王様が実の息子の起こしたクーデターにあつて、牢屋に閉じ込められてしまいます。食べ物も与えられず、ひたすら死ぬことを待つ日日でした。お釈迦様は弟子を派遣して、王に毎日八つの戒を授けます。

「戒」というのは生活の規範です。八戒とは在家信者のための戒で、誓ったその一日限り守るといふものです。王はその戒を守ることを支えとし、精神的に落ち着いていきます。

「一日だけ」というのが大切です。今晚眠つてしまつたら、飢餓のために明日は目覚めないかも知れない。でも翌朝目覚めると、また八戒を授かり、それを守ろうとします。王はこの戒を意識することで、一日一日を大切に過ごすことができました。

今日限りの命かも知れないという中で一日一日の、いえ一瞬一瞬の貴さを知り、その一瞬の中にあるご縁の貴さに思いを致す。それが無常の中で生きる姿なのです。無常の中にあつても、命を支えるご縁の存在に気づくことができたのです。

総本山 永観堂 禅林寺

右の色紙は管長久我巖昭猊下のご染筆です。前々号の色紙は、京都府亀岡市在住大石登美栄様にご進呈します。ご希望の方は八方まで住所氏名・希望号数を明記の上、下記へお申し込み下さい。抽選し一名に進呈。

